

## 最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末 5 月 6 日、日足終値時点(NY 時間午後 5 時)での判断です。尚、内容は、私の有料情報サービス「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)から一部抜粋(毎日お届けしている中で、月曜日の朝一番の配信分のみ)です。毎日の配信をご希望の方は、ぜひ「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)をご覧ください。(動画配信を毎日行っております。無料お試し期間もあります。)

ところで、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断です。そして、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/channel/UCTQj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々な相場解説を無料動画で視聴出来ます。

<<<主要 7 通貨相場週足、日足、4 時間足、1 時間足分析>>>

★「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4 時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1 時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1 時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

そして、トレード戦略の解説は、YouTube で配信している「実践トレード解説」をご参考にしてください。

### ■ドル円

<<週足分析>>

本格上昇トレンド局面。終値が+2σラインを上回る「走る相場」。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、目先、+2σラインを上回り「走る相場」となっているため、「リバーサルパターン」の発生にも注意をして臨みたいところ。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

逆に言うと、「リバーサルパターン」が発生するまでは、買い方向でついていく戦略が有効ということ。その意味で、「トレーリングストップ」が効果的。

#### <<日足分析>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

前日の高値を再度ブレイクして以降、上昇バイアスに変化している。

先週末金曜日の安値 130.10 円が下値ポイント(サポート)。

#### <<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、等々。

#### <<1時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買い

ゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、等々。

## ■ユーロドル

### <<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と-1σラインとの位置関係を注視したい場面。

また、高値切り下げパターンとなっている点にも注目。

すなわち、前週の高値 1.0640 近辺が上値レジスタンス。

尚、終値が-2σラインを下回り、「走る相場」に変化しているため、「リバーサルパターン」の発生にも注意しておきたい場面。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、(2)終値が-2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。

逆に言うと、「リバーサルパターン」が発生するまでは、売り方向でついていく戦略が有効ということ。その意味で、「トレーリングストップ」が効果的。

### <<日足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が-2σラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

尚、「リバーサルパターン」が発生しており、反転上昇しやすい地合いにある。

もっとも、直近の安値 1.0471 をブレイクすると、「リバーサルパターン」は消滅する。

### <<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1ラインから+2ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1ラインから-2ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2ラインの上方にて引ける、もしくは、-2ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2ラインをブレイクすること、等々。

### <<1 時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1ラインから+2ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1ラインから-2ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2ラインの上方にて引ける、もしくは、-2ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2ラインをブレイクすること、等々。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが点灯中だが、すでに、逆行パターン買いサイン点灯時の最終ターゲットの+2ラインには到達済み。

## ■豪ドル/ドル

### <<週足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。尚、遅行スパンは、安値を付けたローソク足を通過するタイミングにあり、底堅く推移しやすい場面にある点に注目。(遅行スパンの同期性)

### <<日足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が-2ラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

尚、「リバーサルパターン」が発生しており、底堅い地合いにあると読む。

売リシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインも点灯中。

### <<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1ラインから+2ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1ラインから-2ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2ラインの上方にて引ける、もしくは、-2ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2ラインをブレイクすること、等々。

### <<1時間足分析>>

下落バイアスを伴ったレンジ局面。

基調としての下落トレンド局面とも読める。

つまり、遅行スパンが陰転しているかぎり、戻り売り優位の基調としての下落トレンド。

尚、売リシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが点灯中。

## ■ポンドドル

### <<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と-1σラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、目先、-2σラインを下回り「走る相場」となっているため、「リバーサルパターン」の発生にも注意をして臨みたいところ。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、(2)終値が-2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。

逆に言うと、「リバーサルパターン」が発生するまでは、売り方向でついていく戦略が有効ということ。その意味で、「トレーリングストップ」が効果的。

売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサインも点灯中。

#### <<日足分析>>

緩やかな下落トレンド局面と調整反騰局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が-2σラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

尚、直近の安値をブレイクしたことで、「リバーサルパターン」は一旦消滅している。

#### <<4時間足分析>>

本格下落トレンド局面。

終値と-1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が-1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

#### <<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、等々。

## ■ユーロ円

### <<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、「リバーサルパターン」が発生しており、反落しやすくなっている。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、

(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

### <<日足分析>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

遅行スパンがローソク足の上方を推移しているため、底堅い地合いと読む。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが再点灯中。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

1)遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、

2)終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、

3)バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、

4)遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、

等々。

### <<4時間足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

尚、目先、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

<<1時間足>>

調整反落局面。

終値が+1σラインを下回って以降、調整反落局面に入り、目先、センターラインを意識した展開。終値がセンターラインをキープする場合は、緩やかな上昇トレンド局面に入る一方、終値が同ラインを下回る場合、本格的な調整反落局面に入り、-2σラインをターゲットに下落しやすくなる。

## ■豪ドル円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、目先、「リバーサルパターン」が発生しており、反落しやすくなっていると読む。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

<<日足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、等々。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。  
買いシグナルの逆行パターンの売りサインが点灯中だが、すでに、逆行パターンの  
売りサイン点灯時の最終ターゲットである $-2\sigma$ ラインにほぼ到達済み。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。  
尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが点灯中。

## ■ポンド円

<<週足>>

調整反落局面。

終値が $+1\sigma$ ラインを下回って引けたことで、調整反落局面入りした格好。  
また、「リバーサルパターン」が発生しており、反落しやすくなっている。  
「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、  
(2)終値が $+2\sigma$ ラインを下回ること、の両方を満たすこと。

<<日足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。  
カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけて  
の価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目  
買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 逆行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 逆行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、  
等々。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが再点灯中。

### <<4 時間足分析>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

尚、直近にて、売りシグナルの逆行パターンの買いサインが点灯中。

### <<1 時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが点灯中。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

以上です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネル登録のご案内。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々なマーフィー流相場分析、解説が動画で無料視聴出来ます。

◆マーフィー流 FX「実践トレードコーチング専用」ライン@のご案内。

以下より登録できます。

<https://www.span-model.com/line/>

◆「スパンオートトレーダー(SAT)」のご案内。

「スパンオートトレーダー(SAT)」とは、「裁量トレード」と「自動売買(EA)」の良いとこ取りをした、とても便利なトレードツールです。

「スパンオートトレーダー」の詳細、及び、お申込みページはこちらです。

<https://www.xfine.info/satrader/>

◆「スパンオートシグナル」のご案内。

スパンモデルを有効に使いこなす為のきわめて強力なツールです。

スパンオートシグナルのご紹介、および、ご購入用ページはこちらです。

<https://www.xfine.info/sauto/>

以上です。